# 自己評価票

## 地域密着型サービス自己評価項目

### (評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営
1．理念の共有
2．地域との支えあい
3．理念を実践するための制度の理解と活用
4．理念を実践するための体制
5．人材の育成と支援

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
1．一人ひとりの把握
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3．多機能性を活かした柔軟な支援
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援
1．その人らしい暮らしの支援
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

Ⅴ．サービスの成果に関する項目

【記入方法】
● 複数のユニットを持つ認知症対応型共同生活介護事業所の場合、各ユニットごとに、管理者が介護職員と協議の上記入してください。
● 次の項目は、小規模多機能居宅介護事業所のみ記入してください。
項目番号23 ○初期に築く本人との信頼関係
項目番号24 ○初期に築く家族との信頼関係
項目番号25 ○初期対応の見極めと支援
項目番号26 ○馴染みながらのサービス利用
項目番号39 ○事業所の多機能性を活かした支援
● 次の項目は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入してください。
項目番号53 ○身だしなみやおしゃれの支援
項目番号59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援
項目番号60 ○お金の所持や使うことの支援
項目番号61 ○日常的な外出支援
項目番号62 ○普段行けない場所への外出支援
項目番号63 ○電話や手紙の支援
項目番号64 ○家族や馴染みの人の訪問
【用語について】
● 管理者＝指定事業者としての届出上の管理者とする。「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。
● 職員＝「職員」には、管理者及び非常勤職員を含む。

| | |
|---|---|
| 事業所名 | ほっとファミリーぞうの目2 |
| (ユニット名) | |
| 記入者(管理者)<br>氏　名 | 宇野澤　壮広 |
| 評価完了日 | 平成20年12月24日 |

# 自己評価票

| | 項　　目 | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | ○印<br>(取組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容<br>（すでに取組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|
| **Ⅰ．理念に基づく運営** | | | | |
| **1．理念と共有** | | | | |
| 1 | ○地域密着型サービスとしての理念<br>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 「私たちは、ひとりひとりの幸福感を大切にし、追求していきます。入居者様も、職員も、家族の方も、共に助け合い、笑顔で過ごせますように。」という理念がある。認知症高齢者のそれまでの生活を大切にしていきたいという理念である。 | | |
| 2 | ○理念の共有と日々の取り組み<br>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 管理者は常に理念に基づき、職員が、具体的にどのように行動すればよいかを話している。朝の申送り時に具体的にどのように考え実行するかを話している。 | | |
| 3 | ○家族や地域への理念の浸透<br>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる | 家族には、入所時や、面会時に話している。地域においては運営推進会議を通して、理念を実践するための内容を伝えている。 | | |
| **2．地域との支えあい** | | | | |
| 4 | ○隣近所とのつきあい<br>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている | 職員や、管理者は近所の方々への挨拶を欠かさないようにしている。利用者を交えての立ち話等を通じて、日常的な普通の付き合いをしている。又、近所の農家の人が野菜を売りにやってくるなど気軽に立ち寄ってもらえたり、近所の園児達が散歩の途中に遊びにくるなどしている。 | | |
| 5 | ○地域とのつきあい<br>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 隣組への参加をしている。地域のお祭りや運動会などに参加に地域の中に溶け込むようにしている。また、買い物等はできるだけ地域の店舗を利用し地域で暮らす住民として考えている。 | ○ | 近所の保育園・幼稚園等の行事等に参加できればといろいろな形で交流を図りたい。 |

| 項　　目 | | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | ○印<br>(取組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容<br>（すでに取組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|
| 6 | ○事業所の力を活かした地域貢献<br>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる | 事業所の中で３ヶ月に１回くらいの割合で周辺のゴミ拾いなどを定期的におこなっている。 | | |
| **3．理念を実践するための制度の理解と活用** | | | | |
| 7 | ○評価の意義の理解と活用<br>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 運営者、管理者、職員は自己評価の意義を理解しており、評価を活かし環境改善等に取り組んできている。 | | |
| 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議が平成２０年５月以降、いろいろな都合で開催できていない。 | ○ | 運営推進会議が最近開催できていないので早急に開催し、サービス向上の為の意見交換や話し合いを持てるようにしていく。 |
| 9 | ○市町村との連携<br>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 何かあれば、市の担当窓口に相談している。 | | |
| 10 | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している | 今年度は管理者・職員共に思うように権利擁護等の勉強会などに参加できていない。 | ○ | 今後、管理者が権利擁護等に関する講義・勉強会をリサーチし、参加できるようにしていく。 |
| 11 | ○虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている | 「虐待」についても福祉施設においてどのようなことがあるのかを事例集などを参照して、全ての職員が事業所内で行なわないための注意を払っている。 | | |

| 項　　目 | | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | ○印<br>(取組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容<br>（すでに取組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|
| **4．理念を実践するための体制** | | | | |
| 12 | ○契約に関する説明と納得<br>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約の際は十分に説明を行い、不安や疑問点についても契約時外でも理解納得できるまで話をしている。 | | |
| 13 | ○運営に関する利用者意見の反映<br>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 利用者の苦情や不満は「要望」「希望」として受け止めている。言葉に表すことのできない場合は、日ごろの表情・行動から推察し、運営に反映するようにしている。 | | |
| 14 | ○家族等への報告<br>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | ホームだより作りを毎月発行しており、日常生活の中の表情を写真と共に掲載し、遠方の家族にもわかりやすくしている。また、健康状態については個々に連絡、または家庭訪問し、家族が安心できるように報告している。 | | |
| 15 | ○運営に関する家族等意見の反映<br>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 御家族面会時には管理者及び職員が家族との密な交流の中で自然に不満・苦情・意見を話せる雰囲気つくりを設けている。 | | |
| 16 | ○運営に関する職員意見の反映<br>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 管理者はショートカンファレンスを毎日行い職員の意見を聞く機会を確保している。 | | |
| 17 | ○柔軟な対応に向けた勤務調整<br>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている | 利用者の状態の変化に合わせて、勤務時間を変更する事もある。必要に応じて職員を確保、配置するように努めている。特に外来通院の必要に応じて日勤者を増やしたり、利用者が重度化した場合も勤務を調整し柔軟に対応している。 | | |

| 項　　目 | | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | ○印<br>(取組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容<br>（すでに取組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|
| 18 | ○職員の異動等による影響への配慮<br><br>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 運営者は、職員の異動は利用者様が馴染みの関係を損ないサービスの質が損なわれる事を十分に理解している。そのため、最小限に抑えるように時期を考慮し引継ぎを十分できるように配慮している。 | | |
| **5．人材の育成と支援** | | | | |
| 19 | ○職員を育てる取り組み<br><br>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 新たな職員が多く思うように取り組めていないのが現状である。 | ○ | 職員が研修を受ける機会を定期的に設けられるようにしていきたい。 |
| 20 | ○同業者との交流を通じた向上<br><br>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | グループホーム連絡協議会に参加し、職員を定期的研修や勉強会を促し、地域の同業者との接点や交流の機会を確保しながら認知症高齢者介護のサービスの確保に取り組んでいる。 | | |
| 21 | ○職員のストレス軽減に向けた取り組み<br><br>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる | 運営者は、管理者や職員のストレッサーが何であるかの把握に努めている。また、外部への研修参加により他の施設の職員との交流を持つ事でストレスを軽減できるように取り組んでいる。 | | |
| 22 | ○向上心を持って働き続けるための取り組み<br><br>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている | 各職員の長所、特技を活かし責任を持って取り組んでもらう事に決めている。長所、特技を活かす事で向上心を持てるように取り組んでいる。 | | |

| | 項　　目 | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | ○印<br>(取組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容<br>（すでに取組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|
| **Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援** | | | | |
| **1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)** | | | | |
| 23 | ○初期に築く本人との信頼関係<br>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている（小規模多機能居宅介護） | | | |
| 24 | ○初期に築く家族との信頼関係<br>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている（小規模多機能居宅介護） | | | |
| 25 | ○初期対応の見極めと支援<br>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている(小規模多機能居宅介護） | | | |
| 26 | ○馴染みながらのサービス利用<br>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護） | | | |
| **2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援** | | | | |
| 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 認知症になっても残された機能はたくさんある。知恵や経験を活かした生活は職員にとっても学びとなり、毎日新たな発見を楽しみ寄り添う関係を築いている。 | | |

| 項　　目 | | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | ○印<br>(取組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容<br>（すでに取組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|
| 28 | ○本人を共に支えあう家族との関係<br><br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている | 家族との交流の機会を図り、共に本人を支える関係づくりを築いている。また、折にふれ、家族に呼びかけている。 | | |
| 29 | ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援<br><br>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している | 入居前の家族との関係は相談時に把握するように努めている。入居後は本人の良いところ、できるところを家族に話す機会を持ち、良い関係を維持、構築できるように支援している。 | | |
| 30 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br><br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 本人の行きたいところ、馴染みの場所に行けるよう、家族には協力を呼びかけ、また体力的に難しい場合は写真を用意するなどで支援している。 | | |
| 31 | ○利用者同士の関係の支援<br><br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている | 食事時やお茶の時には必ず職員がそばにおり、利用者同士が自然に会話を持てるようにしている。また、食事作りではお互いに協力できるようにできる方同士や仲の良い利用者同士を誘い合うように支援している。 | | |
| 32 | ○関係を断ち切らない取り組み<br><br>サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている | やむを得ずサービスを終了された場合でもイベントなどへの参加を御家族に促し、利用者様を連れての付き合いを継続している。 | | |

| | 項　　目 | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | ○印<br>(取組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容<br>（すでに取組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|
| **Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント** | | | | |
| **1. 一人ひとりの把握** | | | | |
| 33 | ○思いや意向の把握<br><br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 入居者の方一人ひとりがどのような暮らしをしたいのか、どのような思いをしているのかをお茶や食事時にさりげなく意向を確認している。その時々の気持ちを確認しながら本人本意の暮らしができるように取り組んでいる。 | | |
| 34 | ○これまでの暮らしの把握<br><br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | これまでの暮らし方の全てが分かるわけではないが、食事の取り方、洋服の好み、仕事、環境などからも把握に努めている。家族から情報を得る事はもちろん行なっている。 | | |
| 35 | ○暮らしの現状の把握<br><br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている | センター方式を導入し、状態の把握に努めている。また、生活のリズムや、ＡＤＬ、認知症の進行など、様々な視点から捉え総合的に把握するように努めている。 | | |
| **2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し** | | | | |
| 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画<br><br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している | 家族、関係者(医療機関を含む）とは本人がよりよく生活していくための課題を家族等を含めて話し合いを持っている。 | | |
| 37 | ○現状に即した介護計画の見直し<br><br>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 介護計画は状況に応じて見直しできるシステムに変更した。開始して間もない入居者が日々刻々と変わる事もあるので現状に即対応できるようカーデックスを導入し利用している。 | | |

| 項　　目 | | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | ○印<br>(取組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容<br>（すでに取組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|
| 38 | ○個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 情報を共有するために必要な事、気づきをテーマに記録に変更したばかりです。それを元に介護計画の見直しがスムーズに活かされている。 | | |
| **3．多機能性を活かした柔軟な支援（小規模多機能居宅介護事業所のみ記入）** | | | | |
| 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援<br>本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている（小規模多機能居宅介護） | | | |
| **4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働** | | | | |
| 40 | ○地域資源との協働<br>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している | 必要に応じて文化施設や教育機関(学校も含む）に協力を要請している。 | | |
| 41 | ○他のサービスの活用支援<br>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている | 入居者本人の意向や必要に応じて支援する事は視野に入れ検討している。 | | |
| 42 | ○地域包括支援センターとの協働<br>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している | 現在の入所者様の中には直接関与する方がいない。 | ○ | 運営推進会議を開催し、包括支援センターとの連携に努めていきたい。 |

| 項　　目 | | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | ○印<br>(取組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容<br>（すでに取組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|
| 43 | ○かかりつけ医の受診支援<br><br>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人、家族が信頼できるかかりつけ医に受診できるよう支援している。また、非常勤職員に看護師がおり、本人の状態等を家族に話したり、医師に伝えたり等して適切な医療が受けられるようにしている。 | | |
| 44 | ○認知症の専門医等の受診支援<br><br>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している | 認知症でも様々な病態があるので、専門医の診断、相談を積極的にしている。家族にもその必要性を理解していただき、積極的に対応している。 | | |
| 45 | | | | |
| 46 | ○早期退院に向けた医療機関との協働<br><br>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している | 入院した場合は医療機関と入院が及ぼすダメージを考慮しながら早期退院に向けて情報交換をしている。 | | |
| 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有<br><br>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 重度化や終末期においては早い段階で家族や本人、医療機関とも話し合いをしている。今現在元気であったとしても明日はどうなるか分からない年齢層なので常に考慮しています。 | | |
| 48 | ○重度化や終末期に向けたチームでの支援<br><br>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている | 重度化や終末期においては一人ひとりの支援ができることとできないこと、また、事業所としてできないことの見極めはしており、早い段階でチームとして取り組んでいけるよう医療機関とも相談しながら行っている。 | | |

| 項　　目 | | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | ○印<br>(取組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容<br>（すでに取組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|
| 49 | ○住み替え時の協働によるダメージの防止<br><br>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている | 入居者がやむを得ず他の場所に移り住む場合は、関係者間で十分に情報交換をし、住み替え後も情報交換を継続し、ダメージが少しでも少なくするように努めている。 | | |
| **Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援**<br>**1. その人らしい暮らしの支援**<br>**(1) 一人ひとりの尊重** | | | | |
| 50 | ○プライバシーの確保の徹底<br><br>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 入居者のプライドが尊重されるように言葉かけに注意している。個人情報の取り扱いにも注意を払い、守秘義務を果たすように注意している。 | | |
| 51 | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br><br>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている | 入居者が自分の意思を表出できるように分かりやすい言葉を使い、説明してる。また、着替えや入浴の場面など日常のさりげないことから自己決定しながら暮らせるように支援している。 | | |
| 52 | ○日々のその人らしい暮らし<br><br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 入居者様は自分のペースがあり、生活のリズムも持っている。入居者様本人がどのように過ごしたいかを確認し、職員の都合を優先しないように心がけながら支援している。 | | |
| **(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援（53は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入）** | | | | |
| 53 | ○身だしなみやおしゃれの支援<br><br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容･美容は本人の望む店に行けるように努めている（認知症対応型共同生活介護） | 入居者本人は好みによって化粧をし、理美容が身体状況が可能な限り理美容店の協力を得ながら、おしゃれが楽しめるようにしている。 | | |

| 項　　目 | | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | ○印<br>(取組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容<br>（すでに取組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|
| 54 | ○食事を楽しむことのできる支援<br>　食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 入居者と職員は力を合わせ協力しながら準備や後片付けをしている。 | | |
| 55 | ○本人の嗜好の支援<br>　本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している | 本人の好みの飲み物を用意している。甘酒、おやつも状況に合わせて提供し、日常的に楽しんでいる。 | | |
| 56 | ○気持よい排泄の支援<br>　排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している | 一人ひとりがいつどのような時に排尿したくなるかを理解し、失敗しないための声かけや対応をしている。 | | |
| 57 | ○入浴を楽しむことができる支援<br>　曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 入浴は一人ひとりの好みが違うので、それに合った入浴を支援しています。 | | |
| 58 | ○安眠や休息の支援<br>　一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している | 入居者一人ひとりの生活習慣を理解し、その日の過し方や体調によって早めに床に入るなど、またこれからの季節は湯たんぽを使用し気持ちよく、ぐっすり眠れるように取り組んでいる。日光にあたることで睡眠のためのホルモン（メラトニン）が産生されるという理由で、朝起床時にカーテンを開け光にあたるようにもしている。 | | |
| **(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援（認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入）** | | | | |
| 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援<br>　張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護) | 入居者一人ひとりの生活歴を把握し、どのようなことが本人の喜びになるかを職員は理解しており、毎日が生き生きして過せるように楽しみ事や、役割を提供している。 | | |

| 項　　目 | | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | ○印<br>(取組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容<br>（すでに取組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|
| 60 | ○お金の所持や使うことの支援<br><br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している（認知症対応型共同生活介護） | 職員は「入居者一人ひとりがお金を使える事」の大切さを理解しており、自己管理するもの、お金を使うときに財布を渡す人など能力に応じて対応している。 | | |
| 61 | ○日常的な外出支援<br><br>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している（認知症対応型共同生活介護） | 戸外に出かけられる機会を作り出している。毎日買い物に行きたい人もいれば、散歩に出たい人もいるので、閉じこもりにならないように支援している。 | | |
| 62 | ○普段行けない場所への外出支援<br><br>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している(認知症対応型共同生活介護） | 春と秋には家族を含めて日帰り旅行をする。その際には、日ごろ入居者との会話からよみがえった記憶を選択する事もある。近隣の場合にはすぐにでも出かける。 | | |
| 63 | ○電話や手紙の支援<br><br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている（認知症対応型共同生活介護） | 入居者が電話をしたいときには職員が電話をかけ、別部屋で心置きなく話せるように支援している。 | | |
| 64 | ○家族や馴染みの人の訪問支援<br><br>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している（認知症対応型共同生活介護） | 家族や友人がいつでも気軽に訪問できるように職員は笑顔で迎え入れ、入居者とともに湯茶を準備、居室またはホールで入居者好みのスタイルで過ごしていただく。居室でゆっくり食事をとることもある。 | | |
| **(4) 安心と安全を支える支援** | | | | |
| 65 | ○身体拘束をしないケアの実践<br><br>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束防止には過去の事例集などを参照して周知徹底している。また、管理者、は身体拘束の研修を受けており正しく理解して職員の指導にあたっている。 | | |

| 項　　目 | | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | ○印<br>(取組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容<br>（すでに取組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|
| 66 | ○鍵をかけないケアの実践<br><br>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 鍵をかけることは夜間のみです。グループホームは「家」であり日中は開放しています。 | | |
| 67 | ○利用者の安全確認<br><br>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している | 職員は、入居者一人ひとりが毎日どのように過ごすのかを理解しており常に職員同士が声を掛け合い所在や様子、そして安全であるかを確認している。また、確認の際には本人のプライバシーに配慮しながらそっと見守りしている。 | | |
| 68 | ○注意の必要な物品の保管・管理<br><br>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている | 認知症による判断力がどのくらいあるかを考慮し、対応している。台所での調理や包丁使いも一人ひとりの能力に応じて用意し、危険にさらされないように取り組んでいる。 | | |
| 69 | ○事故防止のための取り組み<br><br>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる | 入居者一人ひとりのリスクについて職員は常に話し合いどのように対応していくかシュミレーションしている。 | | |
| 70 | ○急変や事故発生時の備え<br><br>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている | 初期対応でできることには限界があるが、急変時には何をするべきかを常に話し合っている。また、救命救急蘇生の勉強会に職員は参加している。 | | |
| 71 | ○災害対策<br><br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 早急に関係職員と相談後実施しなければならない。 | ○ | 避難訓練を定期的に実施できるようにしていきたい。 |

| 項　　目 | | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | ○印<br>(取組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容<br>（すでに取組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|
| 72 | ○リスク対応に関する家族等との話し合い<br><br>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている | 入居者一人ひとりの起こりうるリスクを家族には説明している。できるだけリスクを最小限に抑えながらも自由な暮らしができるように話し合っている。 | | |
| **(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援** | | | | |
| 73 | ○体調変化の早期発見と対応<br><br>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている | 申し送りの時間を活用して、職員全員が入居者の体調を見逃さないためのチェックポイントを看護師からアドバイスをもらい入居者の変化を見逃さないように取り組んでいる。 | | |
| 74 | ○服薬支援<br><br>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | すべての職員までとはいかないが疾患に応じた薬の作用、副作用を理解している。服薬においては看護師が職員に教え、入居者の状態の変化に対応できるように努めている。 | | |
| 75 | ○便秘の予防と対応<br><br>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる | 職員は便秘が心身に及ぼす影響を理解しており、適切な排便のための食事の内容や運動などを検討している。 | | |
| 76 | ○口腔内の清潔保持<br><br>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている | 毎食後口腔ケアを確実に入居者一人ひとりの状態に合わせて行っている。また、適宜口腔内に異常がないか観察も行っている。 | | |
| 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援<br><br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 栄養バランスや食べる量は職員全員が入居者の体重や運動量や習慣を考慮し支援している。水分量は尿の状態も観察しながら毎日確認し脱水を起こさないように配慮している。 | | |

| 項　　目 | | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | ○印<br>(取組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容<br>（すでに取組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|
| 78 | ○感染症予防<br><br>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、ＭＲＳＡ、ノロウイルス等） | インフルエンザは全員予防接種を義務付けし、接種している。疥癬対策に関しては洗濯物は干しあがったものをさらに乾燥機にかけ熱風による殺菌をし、発生しないように配慮している。ＭＲＳＡは常在菌であり体力、免疫力の落ちたものに症状が出る事は周知しています。 | | |
| 79 | ○食材の管理<br><br>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている | 食中毒防止のため毎日調理器具は夜間に次亜塩素ナトリウムを用い消毒している。食材は毎日調達し古いものがない状態にしている。残った食品は持ち越さないようにしている。 | | |
| **2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり**<br>**(1) 居心地のよい環境づくり** | | | | |
| 80 | ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫<br><br>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている | ぞうの目２と表札はある。いたってシンプルにしている。 | | |
| 81 | ○居心地のよい共用空間づくり<br><br>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 昨年までは居間にカーテンがあり冬には光の調節が難しかったが、ロールスクリーンに変え採光に調節が可能になった。また、外の状態がいつも確認でき季節感がさらに味わえるようになった。 | | |
| 82 | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br><br>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 共用空間が狭いが、ダイニングテーブルに気の合った仲間で集まる事もあり、思い思いに過せるように配慮している。 | | |

| 項　　目 | | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | ○印<br>(取組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容<br>（すでに取組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|
| 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br><br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室は本人の好みを活かし(草花や写真を飾る、思い出の品を持ち込むなど）心地良く過せるように工夫している。 | | |
| 84 | ○換気・空調の配慮<br><br>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている | 居間は高位置の窓から換気ができるようになっており、適宜換気をしながら、また、室内には温度計を設置しこまめに気温チェックを行い、入居者への配慮をしている。 | | |
| **(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり** | | | | |
| 85 | ○身体機能を活かした安全な環境づくり<br><br>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 建物内部には手すりや居室センサーが設置されており、転倒防止に配慮し、安心し自立した暮らしが送れるように配慮している。 | | |
| 86 | ○わかる力を活かした環境づくり<br><br>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している | 入居者一人ひとりのできることを理解し、活かし、失敗しないで過ごせるようにしている。失敗しない事が混乱しない事でもあり、センター方式を活用し、工夫している。 | | |
| 87 | ○建物の外周りや空間の活用<br><br>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている | 居間からは中庭が見え、草花や畑が見え季節感も味わえ。気がついたときに活動できるようなっている。 | | |

（ ▒ 部分は外部評価との共通評価項目です ）

## Ⅴ．サービスの成果に関する項目

| 項　目 | | 取り組みの成果（該当する箇所を○印で囲むこと） | |
|---|---|---|---|
| 88 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる | ①ほぼ全ての利用者の<br>②利用者の２/３くらいの<br>③利用者の１/３くらいの<br>④ほとんど掴んでいない | ⑤その他（　　） |
| 89 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある | ①毎日ある<br>②数日に１回程度ある<br>③たまにある<br>④ほとんどない | ⑤その他（　　） |
| 90 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている | ①ほぼ全ての利用者が<br>②利用者の２/３くらいが<br>③利用者の１/３くらいが<br>④ほとんどいない | ⑤その他（　　） |
| 91 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている | ①ほぼ全ての利用者が<br>②利用者の２/３くらいが<br>③利用者の１/３くらいが<br>④ほとんどいない | ⑤その他（　　） |
| 92 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている | ①ほぼ全ての利用者が<br>②利用者の２/３くらいが<br>③利用者の１/３くらいが<br>④ほとんどいない | ⑤その他（　　） |
| 93 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている | ①ほぼ全ての利用者が<br>②利用者の２/３くらいが<br>③利用者の１/３くらいが<br>④ほとんどいない | ⑤その他（　　） |
| 94 | 利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている | ①ほぼ全ての利用者が<br>②利用者の２/３くらいが<br>③利用者の１/３くらいが<br>④ほとんどいない | ⑤その他（　　） |
| 95 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている | ①ほぼ全ての家族と<br>②家族の２/３くらいと<br>③家族の１/３くらいと<br>④ほとんどできていない | ⑤その他（　　） |
| 96 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている | ①ほぼ毎日のように<br>②数日に1回程度<br>③たまに<br>④ほとんどない | ⑤その他（　　） |

| 項　　目 | | 取り組みの成果<br>（該当する箇所を○印で囲むこと） | |
|---|---|---|---|
| 97 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている | ①大いに増えている<br>②少しずつ増えている<br>③あまり増えていない<br>④全くいない | ⑤その他（　　） |
| 98 | 職員は、活き活きと働けている | ①ほぼ全ての職員が<br>②職員の２/３くらいが<br>③職員の１/３くらいが<br>④ほとんどいない | ⑤その他（　　） |
| 99 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ①ほぼ全ての利用者が<br>②利用者の２/３くらいが<br>③利用者の１/３くらいが<br>④ほとんどいない | ⑤その他（　　） |
| 100 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ①ほぼ全ての家族等が<br>②家族等の２/３くらいが<br>③家族等の１/３くらいが<br>④ほとんどできていない | ⑤その他（　　） |

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

認知症高齢者も一人の人間であり、認知症という疾患による障害をもっている。また、慢性疾患を持つ場合も多くあり毎日の生活をいかに健やかに過ごせるようにしていくことに取り組んでいます。